

◆第3学年 学習指導案◆ 「いろいろな音色を楽しみながら合そうしよう」

教材：『エーデルワイス』

多摩市立東寺方小学校

第3学年1組 30名

指導者 細谷 晋 教諭

1 題材の目標

- (1) 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり，旋律の特徴などと曲想との関わりに気付くとともに，楽器の音色の特徴を生かして互いの音を聴き合いながら演奏する技能を身に付ける。
- (2) 音色，旋律，音の重なりを聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，曲の特徴を捉えた演奏の仕方を工夫し，どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。
- (3) 楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりや，旋律の特徴などと曲想との関わりについて考えながら，音を合わせて演奏する学習に主体的・協働的に取り組み，いろいろな音色の重なる響きに親しむ。

2 題材について

(1) 研究主題との関連

①児童の実態から

本学級の児童は，第2学年から授業を担当している。器楽や歌唱の表現活動に対して意欲的な児童が多いが，苦手意識や恥ずかしさをもっている児童も見られる。第2学年では「音をあわせて楽しもう」の題材で鍵盤ハーモニカの三部合奏に取り組み，伴奏や他の旋律，リズムの音を聴きながら，音を合わせて演奏することのよさや面白さを感じ取った。しかし，「よい音色で演奏したい」という思いをもったり，音色のよさを生かすために演奏の仕方を工夫したりする力については，まだ十分に身に付いていない児童も多い。

本題材の学習では，第3学年から始めたリコーダーの学習を生かして，いろいろな楽器を組み合わせた合奏の学習に取り組む。その学習の中で，曲想に合った楽器の音色や響きを聴き取り，それらと演奏の仕方との関わりに気づき，音を合わせて演奏することをさらに楽しめるようにする。

これらの学習を通して，児童が「よい音で演奏したい」「友達と音を合わせて楽しく演奏したい」などの思いをもち，主体的に音楽のよさや面白さを見付けていき，友達と協働する中で学びを深め，表現を高めていくようにする。このような学習を展開して，児童が自分の目指す音楽表現を追究できるよう，学習を進めていきたい。

②題材の意義から

本題材の学習過程においては，まず旋律の特徴，曲の山などの既習内容を生かし，曲の特徴を捉え，曲想との関わりについて考えるようにする。既習

の鑑賞教材『サウンド・オブ・ミュージック』で，歌唱教材『エーデルワイス』を学習して表現への思いを深め，本教材である器楽合奏『エーデルワイス』に歌唱で深めた表現を生かすようにする。

また，リコーダー，木琴，鉄琴等の楽器の音色や響きについては，教師の範奏をよく聴く場を設定する。そこでどのような音色や響きが良いのか，楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりを言語化し共有する。次に，互いの演奏を聴き合い，自分たちの思いに合った音色や響きで演奏しているか，対話を通し表現を高める場を設定する。

音を重ねていく過程では，いろいろな楽器の組合せを試し，それぞれの楽器の音色の重なりを聴き合う。何度も互いの音を聴き合う中で，曲想にふさわしい演奏の技能も身に付けるようにする。このような活動を積み重ねることにより，児童が表現することの楽しさを深め，主体的に活動に取り組むことができるようにしたい。

これらの学習を通して，進んで音楽に関わろうとする態度を養うことができると考える。児童が知識や技能を得たり生かしたりしながら，音楽的な見方・考え方を働かせて取り組む学習を展開し，研究主題である「見つけよう 深めよう 生かそう 音楽を」に迫りたい。

(2) 学習指導要領との関連

【A表現：器楽】(2) ア・イ(ア)(イ)・ウ(イ)(ウ)
本題材において，児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

ア 音色，旋律，音の重なり

3 教材について

●『エーデルワイス』 オスカー・ハマースタイン2世 作詞 阪田寛夫 訳詞
リチャード・ロジャーズ 作曲 佐井孝彰 編曲

出典：小学生の音楽3・歌はともだち5訂版（いずれも教育芸術社）

1959年に初演され、1965年に映画化されたミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』の中で歌われている曲。ミュージカルの中では登場人物のトラップ大佐が、子供たちへ優しく語りかけるように歌う場面と、ドイツに併合され消えゆく祖国オーストリアへの愛を込め、コンサート会場で歌う場面がある。同じ曲であるにも関わらず、それぞれ違う思いを感じ取ることができる。

曲は4分の3拍子、A(a8+a'8)+B(b8+a'8)の二部形式でできている。主な旋律は始めの2小節で短七度と大きく上行し、次の2小節で完全五度下行して落ち着くなど、跳躍進行が多いことが特徴的である。しかし、付点2分音符で長く響かせたり、4分音符で順次進行したりする部分を挟むことにより、全体的にはゆったりとした優しい印象の曲になっている。

本題材で用いる合奏編曲は、リコーダー2、鉄琴、鍵盤楽器（キーボード）による器楽合奏の楽譜を用いながら、木琴、小太鼓（ブラシで演奏）、タンブリン等のパートを加え、色々な音色が重なり合う響きをより深く味わいながら学習を進められるようにする。合奏の中心となるリコーダーは、主な旋律を演奏する1パートと、ミ～ラの4音で副次的な旋律を演奏する2パートがあり、児童の実態や合奏全体のバランスを考えながら選択できるようにする。この編曲では、木琴のトレモロやブラシで演奏する小太鼓などを加えることにより、たくさんの楽器の音色が重なりながらも全体の響きは柔らかく感じられるようにつくられている。このような特徴から、柔らかい音色・優しい響きで合奏しやすく、音の重なり的美しさを感じ取ることができる。

4 研究主題に迫るための手立て

視点1 「見つけよう」主体的な学びの視点からの学習過程の工夫

① 音や音楽との出会いの場の工夫

本題材の学習に先立ち、「曲のかんじを生かそう」の題材において『サウンド・オブ・ミュージック』の楽曲を抜粋して鑑賞し、劇中2つの場面で歌われている『エーデルワイス』を物語の背景や登場人物の心情の背景などに触れながら、曲の感じを生かした歌唱の学習をしている。本題材の学習を始める際に、「みんなで合奏すると、どんなひびきになるのだろうか」という児童の興味を高め、主体的な学習を促すことができる。

また、合奏で扱ういろいろな楽器との出会いの場面では、まず教師の範奏を聴かせることで児童の意欲を高め、「やってみたい」「どうやって演奏したらあんな音が出せるのだろうか」という思いをもちながら、主体的に合奏の学習に取り組めるようにする。

② 見通し、振り返りを大切にした学習の充実

本題材の学習の導入では、原曲や範奏の音源を聴き、曲の特徴、気付いたことや感じたことなどを共有し、掲示物やワークシート等で振り返ることができるようにする。学習の過程で随時その内容を振り返ることにより、自分や友達の表現が曲の特徴を捉えているかどうか等を児童が主体的に考えられるようにする。

視点2 「深めよう」学びを広げ深める、対話を生かした学習の充実

① 児童同士の対話を生かした学習活動の工夫

本題材の学習の過程においては、ペアやグループ、全体など、学習のねらいや児童の実態に応じて児童同士が対話する場面を設定する。音色や響きと演奏の仕方との関わりや、旋律の特徴などと曲想

との関わりについて感じ取ったり考えたりするときには、全体で意見交流をしたり、個の思いを教師が全体で共有したりすることで、児童が音楽的な見方・考え方を働かせながら学びを深めていく。楽器の音色や響きと演奏の仕方などについては、一人一人が自分なりの思いや意図をもって楽器の音色や響きに気を付けながら演奏の仕方を試し、実際の表現につながっているか、ペアやグループで聴き合ったり気付いたことや感じたことを伝え合ったりして、表現が高まるようにする。

② 学びを深める教師の関わり方の工夫

児童同士が対話し学びを深めていく過程の中で、児童が感じ取ったり、気付いたりした発言や表現の工夫を教師が価値付けし、音や音楽で共有できるようにする。その中で児童は、楽器の演奏の仕方や、表現の工夫の仕方についての知識や技能を得たり生かしたりすることができるようになり、理解を深め、音楽表現を高めることにつながると思う。

視点3 「生かそう」学びを生かし、つなげる指導と評価の工夫

視点1で触れた通り、本題材で扱う教材『エーデルワイス』を用いて、前題材に曲想を感じ取って聴いたり歌ったりする学習をしている。さらに本題材では、児童が表したい思いや意図をもち、それに合ったいろいろな表現の仕方に気付くために、重ね方を工夫する学習を取り入れる。登場人物の心情や歌詞が表す情景などにも触れながら、自らの表現に思いや意図をもつことは、他教科での学びを生かすことにもつながる。

このような指導計画により、児童は歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の各領域、分野や、他教科の表現での学習内容を関わらせながら、知識や技能を得たり生かしたりすることができ、「もっとやってみよう」という思いをもち、進んで音楽に関わる態度を養うことができると考える。

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①曲想と音色や旋律の特徴との関わりについて気付いている。 ②思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて、リコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。 ③木琴や鉄琴の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付いている。 ④思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けながら、互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。	①音色や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 ②音色や旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	①リコーダーの音色や音の重なりに興味をもち、楽器の音色や響きに気を付けて演奏する学習に進んで取り組もうとしている。 ②音色や旋律の特徴、音の重なりと曲想との関わりや、楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する学習活動に主体的・協働的に取り組もうとしている。

6 題材の指導計画と評価計画

8 時間扱い

時	○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ T「教師の発問や価値付け」	◆ 評価規準 (評価方法)
<p><第一次のねらい>音色や旋律などの特徴と、曲想との関わりについて気づき、音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏できるようにする。</p>			
1	<p>○『エーデルワイス』の曲想について振り返る。 ・歌詞唱し、旋律や拍子などの特徴や曲想について学習したことを思い出す。 ○リコーダーの音色のよさ、曲想と音色や旋律の特徴との関わり気付く。 ・教師のリコーダーの範奏や二重奏の録音を聴き、気付いたことや感じたことを伝え合ったり、ワークシートに記入したりする。 ・リコーダー1,2のパートを階名唱する。 ・リコーダー1,2のパート(2段目)を演奏する。</p>	<p>◇前題材で曲の特徴についてまとめた掲示物などを活用する。(視点1-①) ◇いろいろな楽器を使った合奏にしていくことを伝えたいので、範奏等でリコーダーの音色のよさを感じ取るようにし、意欲を高める。(視点1-①) ◇曲想について、児童の発言を板書し、今後の学習で活用できるよう、掲示物として残していく。(視点1-②) ◇拡大楽譜を掲示し、リコーダー1と2、それぞれの旋律の特徴を視覚で捉えられるようにする。</p>	<p>◆知① (行動観察・発言内容・ワークシートの記述内容)</p> <p>◆態① (行動観察・発言内容・ワークシートの記述内容 第1時から第2時を通し継続して観察)</p> <p>◆技② (演奏聴取 第1時から第2時を通し継続して観察)</p>
<p>< Aと判断される児童の状況例 > ・曲想と音色や旋律の特徴との関わりや、歌詞の表す情景などを手掛かりに気付いたことを積極的に発言したり、明確な言葉でワークシートに記入したりしている。 < Cと判断されそうな状況への手立て > ・教師の演奏した数種類の音色を比較して聴き、リコーダーの音色のよさに気付くようにする。</p>			
2	<p>○音色や響き、旋律の特徴に気を付けてリコーダーを演奏する。 ・リコーダー1,2のパートを階名唱し、2段目を演奏する。 ・リコーダー1,2のどちらかのパートを選び、全段演奏する。 ・音色や響きに気を付けながら、2つのパートを合わせて2段目を二部合奏する。</p>	<p>◇旋律の特徴や1パートが主な旋律を担当していることなどを振り返り、気に入ったパートを選ぶよう促す。 ◇リコーダー1と2の旋律の特徴に合った演奏の仕方ができているか、一人ずつ聴き助言する。 ◇旋律の特徴や2つの旋律が重なり合うよさに気づき、音を合わせる楽しさを感じ取れるようにする。 ◇第2～5時で継続してリコーダーを演奏する学習を行い、音色や響きに気を付けながら曲全体を通して演奏できるようにしていく。</p>	
<p>< Aと判断される児童の状況例 > ・低音域や旋律が跳躍する部分の息の使い方を工夫しながら、音色や響きに気を付けて自分が選んだパートを演奏することができている。 < Cと判断されそうな状況への手立て > ・自分が選んだパートの一部分が演奏できればよいことを伝え、息の使い方を個別に助言する。</p>			
<p><第二次のねらい>音の重なりや、楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気づき、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。</p>			
3	<p>○音の重なりや、楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり気付く。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・合奏版のCDによるいろいろな範奏を聴き、聴き取ったことと感じ取ったことを伝え合う。 ・教師の範奏を聴き、鉄琴や木琴の音色を感じ取る。 ・鉄琴と木琴のパートを階名唱したり、楽器で演奏(2段目)したりして、音色について気付いたことや感じたことを伝え合い、ワークシートに記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇音量バランスや、演奏の仕方が違う録音を聴くことで、曲想に合った音色や響きに気付くようにする。 ◇範奏を聴くことで、音色に対する興味や関心を高める。(視点1-①) ◇材質や演奏の仕方による音の響きの違いに着目し、言葉や音で共有する。(視点2-①)
<p>〈 A と判断される児童の状況例 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木琴や鉄琴の材質やマレットの動かし方による音色の違いや、残響などの響きの違いに気づき、グループの児童や全体に積極的に伝えたり、ワークシートに記入したりしている。 <p>〈 C と判断されそうな状況への手立て 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の材質や演奏の仕方による音色や音の響きの違いについて、他の児童の発言を参考にさせ、自分の気持ちに近いものを考えるようにする。 		
4	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの音を聴き合いながら、鍵盤楽器やリズム伴奏を演奏する。 ・鍵盤楽器のパートを階名唱したり、楽器で演奏(2段目)したりする。 ・小太鼓をスティックで演奏したときとブラシで演奏したときの音を聴き比べ、感じたことを伝え合ったり、ワークシートに記入したりする。 ・タンブリン、小太鼓のパートをリズム唱したり、ペアで手拍子をしたり、楽器で演奏したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇鍵盤楽器はキーボードと鍵盤ハーモニカを並行して活用する。 ◇範奏を通して音の違いを共有し、音色に対する興味や関心を高める。(視点1-①) ◇全員が2種類の楽器を経験できるように、場の設定を工夫する。
5	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの音を聴き合いながら、どのように楽器の音を重ねて演奏するかについて思いをもつ。 ・任意の楽器で2段目を演奏する。 ・2段目を全員で合奏して録音をしたり、2つのグループに分かれて聴き合ったりし、音量のバランスについて気付いたことを互いに伝え合う。 ・主な旋律が聴こえるかなどについて、気付いたことを生かしたり試したりしながら、演奏するパートを決める。 ・担当するパートの旋律やリズムをグループで確認し、演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇拍にのり、互いの音をよく聴き合って演奏するよう助言する。 ◇第3時でまとめた掲示物を提示し、楽器によって音量に差があり、曲想を生かすためにはバランスを整える必要があることを想起できるようにする。(視点1-②) ◇児童が気付いた内容を板書にまとめながら、調和のとれた合奏にできるよう助言する。(視点2-①)
<p>〈 A と判断される児童の状況例 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想を生かした合奏にするために、音色や旋律の特徴、音の重なりについて聴き取ったことと感じ取ったことの関わりを積極的に発言したり、演奏の仕方を工夫したりしている。 <p>〈 C と判断されそうな状況への手立て 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想を生かした合奏にするための演奏の仕方を、教師の2通りの範奏を比較して聴かせ、どのように感じるかについて考えるよう、個別に助言する。 		
6	<ul style="list-style-type: none"> ○曲想に合った音色や響きに気を付けて演奏する。 ・同じパート内の2人組で演奏し、曲想に合った音色や響きになっているかを試す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇前時までの学習で児童が気付いたことや感じたことが書かれた掲示物を

◆知③
 〈行動観察・発言内容・ワークシートの記述内容〉

◆思・判・表①
 〈行動観察・発言内容・ワークシートの記述内容〉

	<ul style="list-style-type: none"> ・パートごとの演奏を聴き合い、楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付いたことを互いに伝え合う。 ・伝え合ったことを生かし、互いの音を聴き合いながら、全員で音を合わせて演奏する。 	<p>提示し、学習したことを生かして音色や響きについて助言し合いながら演奏するよう伝える。(視点2-①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇他のパートの演奏について良かった点、改善した方がよい点について、児童の発言を板書にまとめて確認し合えるようにする。(視点2-①) ◇リズム伴奏を聴くと合わせやすいことなどを想起し、音を合わせるよさを味わって演奏できるようにする。 	
<p>＜第三次のねらい＞音色や旋律の特徴、音の重なりと曲想との関わりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する学習に取り組む。</p>			
<p>7 本時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○曲想を生かした演奏の仕方や音の重ね方について考える。 ・音の重なりと曲想との関わりについて考えながら、曲全体の音の重ね方や演奏の仕方について意見を出し合い、試しながら合奏する。 ・互いの音を聴き合いながら合奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇児童が表したい思いや意図をもち、それに合ったいろいろな表現の仕方に気付くために、重ね方を工夫する学習を取り入れる。(視点2-②) ◇これまでの学習を生かし、互いの音をよく聴き合いながら演奏するよう助言する。 <p>★〈Aと判断される児童の状況〉〈Cと判断されそうな状況への手立て〉は本時案 参照。</p>	<p>◆思・判・表② 〈行動観察 ・発言内容・ 演奏聴取・ワ ークシートの 記述内容〉</p>
<p>8</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○合奏の響きを互いに聴き合う。 ・学年の中でクラスごとに合奏し、互いに合奏の響きを聴き合う。 ・互いの演奏を聴いて気付いたことや感じたことを伝え合う。 ・重なり合う音の響きを感じ取りながら、全員で合唱奏を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇これまでの学習を生かし、いろいろな楽器の音が重なるよさに着目して聴くよう助言する。 ◇互いの演奏のよさや工夫について意見交換し、自分たちの演奏を振り返ることができるようにする。 ◇曲想を生かして演奏を楽しむよう言葉掛けをする。 	
<p>〈 A と判断される児童の状況例 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想にふさわしい音色で、互いの楽器の音や伴奏を聴き、音を合わせて演奏している。 <p>〈 C と判断されそうな状況への手立て 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習で気付いたことや身に付けたことを思い出すよう促し、それらを生かして演奏することができるよう個別に指導する。 			
<p>〈 A と判断される児童の状況例 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりに興味をもち、気付いたことや感じたことを積極的に他の児童に伝えたり、それらを生かそうとしながら楽器を演奏したりしている。 ・歌ったり演奏したりする活動や、楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりなどについて考える学習に進んで取り組み、友達と積極的に意見交流をしたり、発言やワークシート等で自分の思いや考えを積極的に伝えたりしている。 <p>〈 C と判断されそうな状況への手立て 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の持ち方や構え方などを個別に助言したり、近くで教師の範奏を聴かせたりし、楽器固有の音色や響きについて興味をもつことができるようにする。 ・児童の表現やつぶやきを価値付け、音楽活動や考える活動への意欲をもつことができるようにする。 ・楽器の演奏に対する意欲が高められるよう、適宜個別に指導をしたり、教師の範奏を近くで聴かせたりする。 			
<p>◆技④ 〈演奏聴取 第3時から 第8時を通 し継続して 観察〉</p> <p>◆態② 〈行動観察 ・発言内容・ 演奏聴取・ワ ークシートの 記述内容 第3時から 第8時を通 し継続して 観察〉</p>			

7 本時の展開

7 時間目

(1) 本時のねらい

音色や旋律の特徴、音の重なりと曲想との関わりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、楽器の特徴を捉えて音の重ね方や演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。

(2) 本時の展開

○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ ◆ 評価規準〈評価方法〉
<p>○前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『エーデルワイス』の曲想を感じ取って体を動かしながら歌う。 同じパート内で2グループに分かれ、曲想に合った音色や響きで演奏できているかを確認し合う。 互いの音を聴きながら、全員で音を合わせ、繰り返して2回演奏する。 <p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音を弱くして一りんだけさいているようにえんそうしよう。 リコーダーでえんそうしたら、エーデルワイスの白い小さな花の感じになると思う。 楽きをへらしてえんそうしてみたらどうだろう。 せっかく練習したから、全部えんそうしたいな。 さっきみたいに2回えんそうすれば、2回目を全員でえんそうすることもできるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇強弱をはっきりつけてピアノ伴奏を弾いたり、エーデルワイスの揺れる感じを想起させたりすることで、曲想を感じ取れるようにする。 ◇自分にとって曲の山だと思うところは立って歌うなど、曲の中で一番盛り上がる場所を押さえておくことで、楽器の重ね方や演奏の仕方の工夫につながるようにする。 ◇前時までの学習で気付いたことや感じたことについて、掲示物やワークシートの記入内容も見ながら振り返るよう促す。(視点1-②) ◇T「みなさんの演奏は、いろいろな楽器の音色が重なり合い、花が一面に咲いているように感じられて素敵でした。もし、一輪だけで咲いている花の様子を表現するとしたら、どうすればよいですか」(視点2-②) ◇児童が表したい場面や様子に合うように、強弱を考えたり、1回目は楽器の重ね方を変えたりし、途中で休むパートがあってもよいこと、2回目は全員で演奏することなどを伝える。
<h3>楽器の重ね方やえんそうの仕方を考えて、1組のエーデルワイスを表現しよう</h3>	
<p>○曲想を生かした演奏の仕方や音の重ね方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の提示した重ね方で演奏する。 <ol style="list-style-type: none"> ①リコーダー1と鉄琴 ②鍵盤楽器とタンブリン、小太鼓 ③木琴とリコーダー2 <p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①は、楽きが少ないけど、花がかわいくさいているように感じた。 ②は、リズムばんそうがあるとにぎやかな感じがした。 ③は、1、2だん目が同じ動きをしていた。 主なせんりつがないとさびしい。 <ul style="list-style-type: none"> 音の重なりと曲想との関わりについて考えながら、曲全体の音の重ね方や演奏の仕方について意見を出し合い、試しながら合奏する。 <p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2回目は全部の楽きでえんそうして、えい画のみんなで歌っていた場面みたいにもり上げたい。 1回目を鉄きんとリコーダーだけでやってみたら、小さなお花がさいているみたいにきこえたよ。 だんだんもり上げるために、えんそうする楽きの数をふやしていくのはどうだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇3種類の組合せを提示し、「主な旋律」「同じリズム」「拍を刻んでいる」など合わせる手掛かりとなるパートなどに気付いておくことで、根拠をもって組合せを考えることができるようにする。 ◇T「①②③の組合せで演奏して、感じたことはありますか」 ◇前時までに学習したことの掲示物を示し、旋律などの特徴と曲想との関わりを生かして考えられるようにする。 ◇T「楽器をどのように重ねていくかによって、曲の感じも変わりますね。では、1組の『エーデルワイス』はどのような重ね方で表現しましょうか」 ◇会場で『エーデルワイス』を歌う父親の心情や、エーデルワイスの様々な様子、曲の山、2段目と4段目の違いなど、重ね方を考える上で手掛

- ・3だん目は他のだんとちがうせりつになっているから、大切にすることをえんそうすると思う。

【予想される児童の発言】

- ・楽きが少ない時は、もっとやさしくえんそうしようと思いました。
- ・みんなでえんそうする時は、あのえい画のようにみんなの気持ちが一つになったような気がしました。
- ・3だん目で「大好き」って気持ちをこめたら、音がやさしくなって、本当に大切にしているのが伝わる感じがしました。

【重ね方と板書の例】

楽きの重ね方やえんそうの仕方を考えて、1組のエーデルワイスを表現しよう

	1回目				2回目			
	1だん目	2だん目	3だん目	4だん目	1だん目	2だん目	3だん目	4だん目
1	→	→	→	→	→	→	→	→
2		→	→	→		→	→	→
3			→	→			→	→
4				→				→
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								
31								
32								
33								
34								
35								
36								
37								
38								
39								
40								
41								
42								
43								
44								
45								
46								
47								
48								
49								
50								

- ・音色や旋律の特徴、音の重なりと曲想との関わりに気を付けながら、互いの音を聴き合って合奏する。

【予想される児童の発言】

- ・楽きをへらしたりふやしたりして、エーデルワイスの花がさくいろいろなようすを表現できたと思う。
- ・1回目はしずかな感じで始まって、えい画でお父さんが一人で歌っている場面が思いうかんだ。
- ・3だん目の強弱に気がつけたから、大切にしたいかんじがわった合そうになったと思う。
- ・2回目にみんなでいっしょにえんそうしたとき、気分がもり上がった感じがしてとても気持ちよかった。

- ・本時の学習をワークシートに記入して振り返り、感想を伝え合う。

かりとなる発問をし、対話を通して考えていくようにする。(視点2-②)

- ◇児童の演奏を適宜録音し、表したい曲想にふさわしい演奏ができていないかを聴いて確認できるようにする。
- ◇T「楽器の重ね方を変える前と後では、音色や曲の感じはどのように変わりましたか」「今の演奏の仕方は、自分が表したい曲の感じに合っていましたか」
- ◇児童が考えた楽器の重ね方を掲示物や板書で提示し、変化を視覚で捉えられるようにする。

- ◇これまでの学習を生かし、互いの音をよく聴き合いながら演奏するよう助言する。
- ◇T「曲の感じに合った楽器の重ね方や演奏の仕方を考えることはできましたか」「今日の学習で考えたことや感じたことについて、何人か発表してください」

- ◇次時は他のクラスと合奏を聴き合うことを伝え、意欲を高めるようにする。

◆音色や旋律の特徴、音の重なりと曲想との関わりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、楽器の特徴を捉えて音の重ね方や演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。思・判・表②〈行動観察・発言内容・演奏聴取・ワークシートの記述内容〉

〈Aと判断される児童の状況例〉

- ・主な旋律の動き、自分が担当する楽器と他の楽器との音色や音量の違いを聴き取り、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりや、どのような楽器の組合せで演奏するかについて考えたことを明確に言葉で表すことができる。

〈Cと判断されそうな状況への手立て〉

- ・担当する楽器の演奏の仕方や旋律の特徴、音色や音量の違いについて掲示物を見ながら想起したり、曲想との関わりについて気を付ける点を一緒に演奏しながら助言したりする。

助言者の言葉

“先生、今日の音楽合奏だよ、ヤッター!!” “木琴やりたい、大太鼓、〇〇×△△～ワイワイガヤガヤ” 大騒ぎの合奏賛歌で渦巻く。好きな理由は、いろいろ。何でもいい、どうでもいい、音楽好きな子になってくれれば、と。授業という枠の中での選曲と取り組みは、意味が重い。子どもの感性を呼び起こし、音楽のもつ“力”が、更に音楽好きになる。子どもたちが覚えやすい、口ずさみたくなる。その上短いこと、でも洒落ていて、ずっと厭きない魅力、やればやる程、子どもの心の扉を叩けるもの。即ち、可能性が広げられる程、「すごい!!」「素敵!!」な表現の工夫が生まれてくると信じている。

それにしても、この突き抜けるような青空、秋色に染まる木々の彩り、柔らかな陽差し、いつもの通りの子ども達の元気な姿。マスクがなかったら、もっと笑顔に会えるのに。 合唱指揮者・指導者 前田 美子